

1.4 令和7年度 学校運営連絡協議会実施報告書

令和8年3月31日
東京都立田柄高等学校

1 組織

(1) 東京都立田柄高等学校 学校運営連絡協議会 (全日制課程)

(2) 事務局の構成 主任教諭 (総務部担当) = 事務局長、総務部員1名 計2名

(3) 内部委員の構成

校長、副校長、経営企画室長、主幹教諭 (教務部主任)、主幹教諭 (生徒部主任)、主幹教諭 (進路指導部主任)、主任教諭 (総務部主任)、主任教諭 (1学年主任)、主任教諭 (2学年主任)、主幹教諭 (3学年主任) 計11名

(4) 協議委員の構成

①学識経験者 (大学教授) 明海大学 教授 藤井 大輔

②学識経験者 (大学教授) 日本女子体育大学 教授 大塚 雅一

③近隣自治会 光が丘地区連合協議会 副会長 阿瀬見 宏

④近隣中学校長 練馬区立田柄中学校 校長 小室 賢一

⑤近隣幼稚園園長 練馬区立光が丘さくら幼稚園 園長 檀原 雅恵

⑥NPO 法人 YSC グローバルスクール

統括コーディネーター ピッチフォード 理絵

⑦田柄高校保護者代表 徳田 博子

⑧光が丘警察署スクールサポーター 石山 達哉

計8名

2 令和7年度学校運営連絡協議会の概要

(1) 学校運営連絡協議会 (第1～3回) の開催日時、出席者、内容、その他

第1回 令和7年5月15日 (木曜) 内部委員10名、協議委員5名

校長挨拶、協議委員の委嘱 (評価委員の選出)、協議委員自己紹介、校内委員自己紹介、本校の教育活動報告 (校長、経営企画室、教務部、生徒部、進路指導部、総務部、1学年、2学年、3学年)、協議委員より質問、協議 (意見交換、各協議委員より)、学校経営計画、本校の現状と課題等説明

第2回 令和7年10月16日 (木曜) 内部委員11名、協議委員6名

校長挨拶、本校の教育活動報告 (校長、経営企画室、教務部、生徒部、進路指導部、総務部、1学年、2学年、3学年)、学校評価アンケートについて、協議委員より質問、協議 (校評価アンケート、意見交換、各協議委員より)、これまでの教育活動に関する取組と報告、校則に関する意見交換

第3回 令和8年2月10日 (火曜) 内部委員11名、協議委員3名

校長挨拶、本校の教育活動報告 (校長、経営企画室、教務部、生徒部、進路指導部、総務部、1学年、2学年、3学年)、学校評価アンケートの結果、協議委員より質問、協議、協議委員からの教育活動に対する意見、学校評価の内容検討、学校評価の報告及び学校運営に関する提言、協議、次年度に向けた方向性の確認

(2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他

第1回 令和6年10月10日 (木曜) 内部委員7名、協議委員3名

学校評価の基本方針の確認、今年度の学校評価の実施に向けた検討
今年度の学校評価の観点・項目、内容の検討、実施時期の検討

第2回 令和7年2月12日 (水曜) 内部委員7名、協議委員1名

アンケート集計結果の分析・考察、課題の整理

3 学校運営連絡協議会による学校評価 (学校評価報告)

(1) 学校評価の観点

「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施する。

(2) アンケート調査の実施時期・対象・規模

- ・ 11月 全校生徒 対象：436名 回収：381名 回収率： 87.4%
- ・ 11月 保護者全員 対象：436名 回収：265名 回収率： 60.8%
- ・ 11月 地域・住民 対象：383名 回収： 21名 回収率： 5.5%
- ・ 11月 教職員 対象： 48名 回収： 48名 回収率：100.0%

(3) 主な評価項目

- ・ 学校運営、学習指導、生活指導、進路指導、特別活動、部活動、健康・安全、施設・設備、ライフ・ワーク・バランスの推進などの評価項目を、設定する。

(4) 評価結果の概要（校長や学校全般への意見・提言内容）

田柄の多様性が学校の良さになっているかを質問した項目は、生徒は約80%、保護者は約90%近くが肯定的に受け止めている。

田柄に入りたい部活動があるか生徒に質問した項目は、「あまり当てはまらない」「あてはまらない」を合わせると40%であった。部活動ニーズや部活動への参加意欲をさらに調査する必要がある。

生徒に意見を反映できているかを問う質問では、56%が反映できていると回答している一方27%の生徒は反映できていない、と感じている。生徒会含め、生徒が学校に意見を反映できると実感持てるように取り組む。

東京都の教育方針に合わせた本校の取組に関して教職員に意識調査したものである。82%は理解している、と回答している。新しい教育のスタイルに関する校内研修を実施するなどしてさらなる浸透を図る。

その他3年間の経年比較で顕著な変化のあった項目は以下の2点である。

生徒の美化への取組を質問した項目である。取り組んでいると回答した生徒は、R5 86%→ R6 76% → R7 60%と年々減少している。教室等での飲食マナーの問題も顕在化しており、美化と共にマナーの指導が必要である。

地域の方に本校の情報発信について質問した項目である。学校ホームページの更新回数は増加したが、「よくあてはまる」がR7は0%となっている。これまで発行してきた「学校だより」を休止していることと関連している可能性がある。募集対策としての広報と共に今後の発信方法を検討する。

(5) 評価結果の分析・考察（校長や学校全般への意見・提言）

外国籍生徒の中には、日本の文化、学校生活への理解が不十分なことにより、指導を受けており、指導を受けることについて納得していない様子が見られる。学校のきまりなどルールを翻訳し、生徒に理解させること、入学段階で十分な説明をすることが求められる。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題（学校の自己評価へ反映）

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ・ 学校の決まりに関して意見交換をし、「学校のきまり」の改訂に生かした。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ・ 学校のきまりなどを生徒に身に付けさせるためには教員の指導を一貫する必要がある。
- ・ より適正な評価を行うためには、地域に対し、一層情報発信する必要がある。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項（学校経営計画へ反映）

(1) 学校運営

今回の学校評価を受け、令和8年度学校経営計画に反映させる。生徒保護者に対して、学校の教育方針や活動についての情報を提供・説明し理解・協力を得る。

そして今年度の課題となった、日本語指導、新たな教育スタイルへの転換について、更なる改善方向を目指す。

(2) 学習指導

生徒の主体性を育む授業に学校全体が転換していく必要がある。

(3) 特別活動

文化祭、体育祭などの学校行事では、本校の特色を生かした行事に転換する。

1学年ではスキルアップ推進校のジョブキャンプ、TGG等を活用し、体験を充実さ

せた。引き続き、学校全体で部活動の活性化を推進していく。

(4) 生活指導

指導案件は多い。生徒指導提要に基づき生徒理解を深め指導をする。SNSトラブルや様々な犯罪防止に警察と連携を深め、セーフティ教室等で生徒の意識を高める。

(5) 進路指導

外国籍生徒、大学進学希望生徒、就職希望生徒など本校生徒の進路希望は多岐にわたっている。外国籍生徒への在留資格の説明会等実施すること、探究活動を充実させ、より適性に合った進路決定につなげる。

(6) 健康・安全

YSW、SC、巡回臨床心理士の体制で、専門的な見地で今後も指導を推進していく。また次年度も教育相談連絡会を9回実施し、様々な生徒情報を共有し、全教員で確認して組織的に取り組んでいく。

6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 8人

(2) 学校が良くなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
5	3					0

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】職員会議及び企画調整会議への参加実績はなし。

【成果】職員会議や企画調整会議への参加実績はないものの、授業公開、本校生徒のボランティア活動（光が丘地区祭）、文化祭での活動、日本の伝統文化発表会、卒業式を参観していただき、講評をいただいている。

8 その他

- ・地域・住民のアンケート回収率を高めるために、回答方法を検討する必要がある。
- ・評価精度の更なる向上のため、学校公開の機会を増やして向上のため、学校公開の機会を増やしていく。